

## 2. 研究主題

# 研究主題

## 「意欲を持って学び合う児童」の育成 ～一人ひとりが活躍する場面を通して～

### 3. 主題設定理由

今日、社会の変化に柔軟に対応し行動できる人間を育成することが望まれている。学校教育においても、自ら考え行動できる自立した人間となる基盤を育成することが不可欠である。

本校は、山河の美しい人情に厚い地域である。近郊都市部からの人口流入があることなどで価値観が多様化しつつあるが、学校教育への関心が高く協力的である。

児童は、素直で物事に対して真面目に取り組むことができる。また、保育園の頃から少人数集団で育ったため、お互いのことをよく知っており、認め合うことができる。

しかし、固定化された人間関係のため、切磋琢磨する場面が少なく、現状に満足してしまう傾向にある。授業では、積極的に自ら自分の思いを相手に伝えることを苦手とする児童がまだまだ多く、学び合いになりにくい面も浮かび上がってきた。

そこで、まず学びの土台となる生活習慣・学習習慣を定着させるための取り組みをこれまで進めてきた。「河内っ子 学びのやくそく」（資料）を作成し、各学年で育てるゴールとし、その上に学習の基礎・基本の定着を図り、個々の児童の表現力を育成する試みを行ってきた。

その成果として、基本的な生活習慣や学習習慣の規範意識が向上してきた。少人数ならではの全校児童での縦割り班活動をより有効に行うことで、お互いの新たな面に気づく場面も見られるようになり、積極的な活動につながるものも出てきた。また、基礎・基本の定着から、課題に対して考えやまとめを「書く」ことに慣れ、一人ひとりの表現力も少しずつ着いてきた。

しかし、自ら進んで取り組んでいく意欲の低さという課題が残っている。また、一人ひとりが活躍する学び合いの質の向上も求められる。

そこで本年度は、少人数であっても一人ひとりが活躍する場面を通して「意欲を持って学び合う児童の育成」を研究テーマとして取り組んでいく。

これまでの「基本的な学習習慣や生活習慣」の定着をさらに確かなものにするために、「河内っ子 学びのやくそく」の中から毎月の重点事項を設け、職員間で共通認識を持ちながら取り組みたい。また、「集団づくり」では、学級だけではなく、少人数の良さを生かした特別活動を仕組み、一人ひとりにめあてを持たせ、その達成感を味わわせることで、次の意欲につながる活動の機会としていきたい。

これらの土台の上に学習の基礎・基本の定着、さらに意欲的な表現力の育成を積み上げていきたい。そして、一人ひとりが相手意識を持ち表現し伝え合うことができれば、自分とは異なる考えを聞くことで新たな発見ができる。そのことが、学ぶ意欲や自ら進んで取り組んでいく意欲につながっていくのではないかと考える。